



「麻布未来写真館」

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会 平成21年度活動報告

～ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。～



六本木・麻布区の御大礼奉祝門（昭和3年）出典：「昭和御大礼奉祝志」

はじめに

本活動報告書は、港区麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」（平成 21 ～ 23 年度）において、区民参画組織「麻布を語る会・麻布未来写真館分科会」が平成 21 年度に取り組んだ活動の記録です。

「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」も含まれた、かけがえのない価値が備わっています。

本報告書に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆様への地域への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました関係者の皆様に、心から御礼を申し上げます。

平成 22 年 3 月 港区 麻布地区総合支所協働推進課

《 目 次 》

1. 分科会活動の概要	1
「麻布未来写真館」とは	1
分科会活動記録	2
まち歩き地図（撮影ルート）	3
2. パネル展の概要	4
パネル展の開催	4
麻布フェスタ 港区麻布地区総合支所 ロビー及び階段	5
港区役所 ロビー	5
フジフィルムスクエア ホワイエ	6
港区麻布地区総合支所 ロビー	6
3. 未来に向けた新しい麻布	7
パネルの作成	7
『麻布の昔と今 そして未来へ』	8
『いろいろな@麻布』	22
4. メンバーのことば（一年間の活動を振り返って）	26

「麻布未来写真館」とは

平成 21 年度から港区麻布地区総合支所では、区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取り組みとして「麻布未来写真館」事業を開始しました。

当事業は、麻布地区の資料を収集・保存していくことにより、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承し、将来に向けて活用していくことを目的としています。

同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

平成 21 年度は、広報紙等の募集を通じて集まったメンバーにより、富士フイルム株式会社のご協力も受けながら、技術面の講習会や撮影テーマ・箇所選定のためのワークショップ、まち歩き・撮影会等を実施してまいりました。

【分科会メンバー名（50 音順・平成 22 年 1 月 1 日現在）】

A グループ 臼井浩之（座長）、増子照孔、横島久子

B グループ 磯和子（副座長）、近藤敏康、佐井有美子、平賀亘代



分科会活動記録

分科会では、A・B、2つのグループにより撮影テーマの検討、まち歩き（撮影）、パネル展に向けた展示の検討等を行いました。

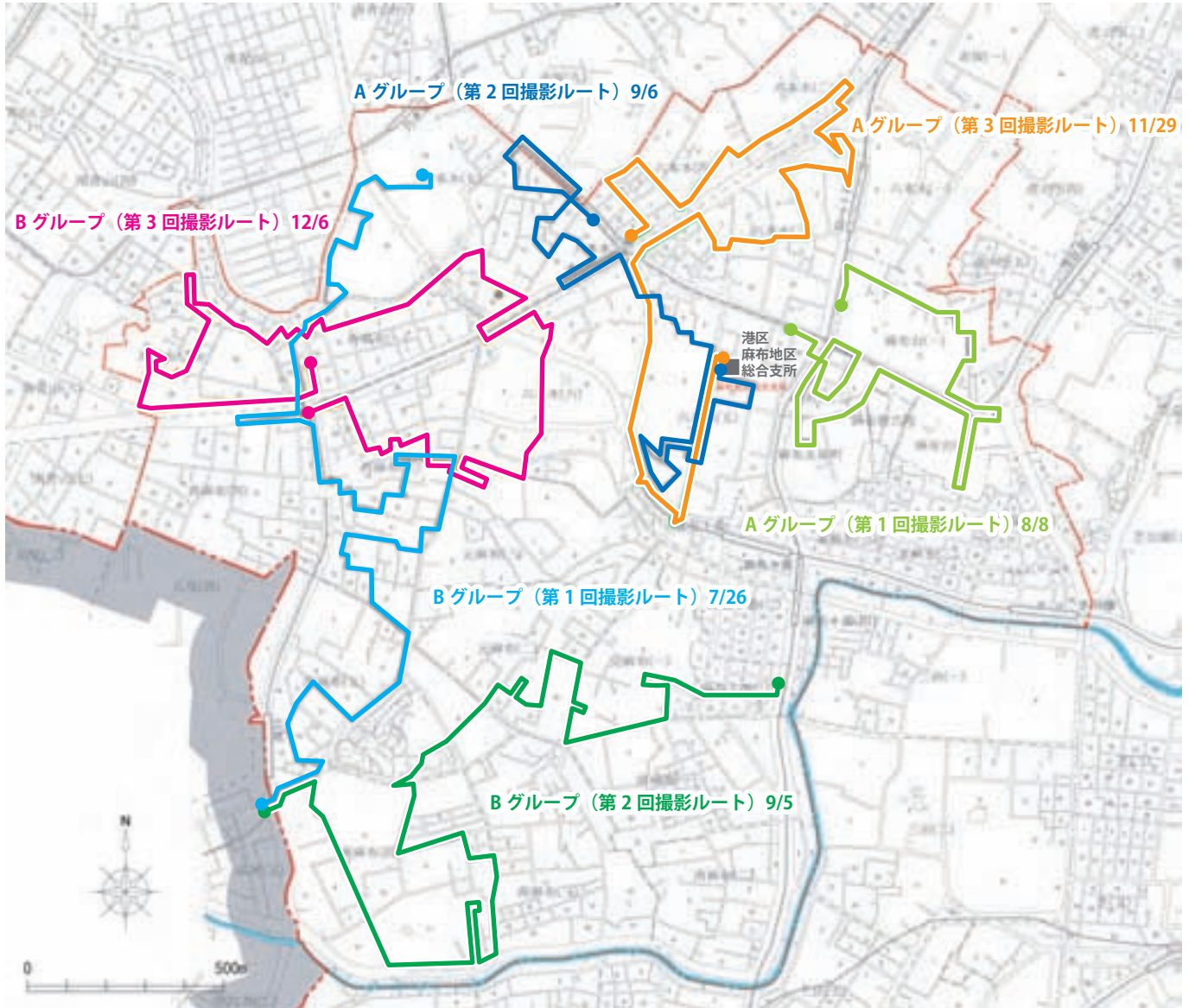
◆区民参画組織・麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会活動記録

平成 21 年	5 月 19 日	第 1 回分科会（メンバーの紹介、分科会の実施要領説明）
	6 月 26 日	第 2 回分科会（デジタルカメラについての講義）
	7 月 17 日	第 3 回分科会（グループ分け、撮影テーマ等の検討）
	7 月 26 日	第 4 回分科会（B グループまち歩き：第 1 回撮影）
	8 月 8 日	第 4 回分科会（A グループまち歩き：第 1 回撮影）
	8 月 25 日	第 5 回分科会（撮影結果報告・講評、グループワーク）
	9 月 5 日	第 6 回分科会（B グループまち歩き：第 2 回撮影）
	9 月 6 日	第 6 回分科会（A グループまち歩き：第 2 回撮影）
	9 月 15 日	第 7 回分科会（撮影結果報告・講評、グループワーク）
	10 月 9 日	第 8 回分科会（麻布フェスタに向けた展示の検討）
	10 月 25 日	麻布フェスタ（麻布未来写真館パネル展）
	11 月 20 日	第 9 回分科会（麻布フェスタでのパネル展の感想・講評）
	11 月 29 日	第 10 回分科会（A グループまち歩き：第 3 回撮影）
	12 月 6 日	第 10 回分科会（B グループまち歩き：第 3 回撮影）
	12 月 15 日	第 11 回分科会（撮影結果報告・講評、グループワーク）
平成 22 年	1 月 12 日	第 12 回分科会（パネル展に向けた展示の検討）
	2 月 8 日	区役所ロビーでの展示（～ 2/10）
	2 月 19 日	フジフィルム スクエア ホワイエでの展示（～ 3/4）
	2 月 23 日	第 13 回分科会（パネル展の感想・講評、活動報告書の検討等）
	3 月 8 日	港区麻布地区総合支所 ロビーでの展示（～ 3/19）
	3 月 16 日	第 14 回分科会（活動報告書の検討等）



まち歩き地図（撮影ルート）

分科会では、A・Bグループで各3回（計6回）のまち歩き（撮影）を行いました。



パネル展の開催

分科会活動の中で、各グループのテーマに基づき撮影された写真を、平成21年10月に「麻布未来写真館」の一環として、また平成22年2月から3カ所で開催した。

- ① パネル展開催にあたって
(平成22年2月)
- ② 「麻布未来写真館」パネル展 ポスター
(平成21年10月)
- ③ 「麻布未来写真館」パネル展 ポスター
(平成22年2月)

①

港区麻布地区総合支所地域事業「麻布未来写真館」 パネル展の開催にあたって

港区麻布地区総合支所は、平成21年2月に、「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」という地区の将来像の實現を目指し、地区の基本計画である「麻布地区設計計画」を策定しました。

このたび開催するパネル展は、麻布地区総合支所が独自に計画化した地域事業「麻布未来写真館」の一環として実施するものです。

国際性に富み、歴史と文化の魅力に溢れた麻布地区の魅力を一層高め、まちなみを未来に継承していくため、本事業を通じて、歴史や文化資源をより多くの方に伝え、愛着を深めていただくとともに、今後より一層の保全・継承と、活用を図ってまいります。

今年度初めての試みですが、どうぞご中々りとご観覧ください。また、ご観覧いただいた全ての皆様へ、過去、現在、未来にわたるそれぞれの思いの「麻布のまちなみ」の審について、心を込めていただければ幸いです。

平成22年2月吉日

港区麻布地区総合支所長

小池 義基 氏

②



③



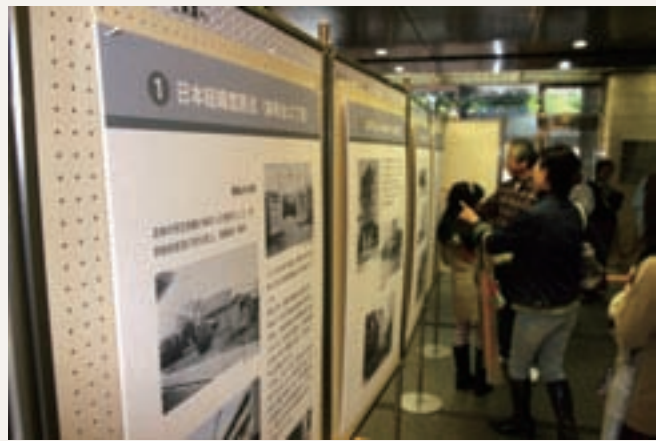
麻布フェスタ

港区麻布地区総合支所 ロビー及び階段

平成 21 年 10 月 25 日（日）

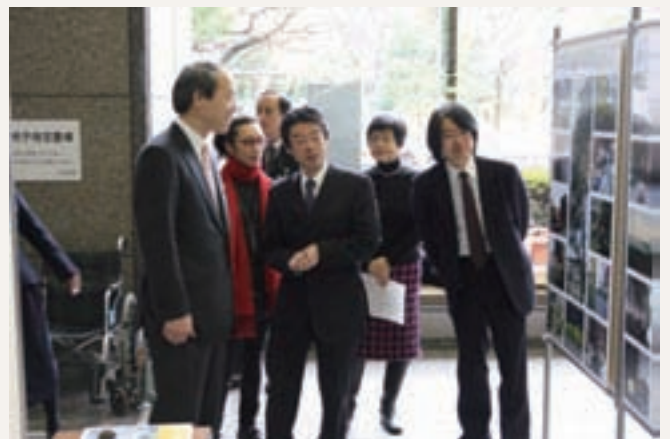
～ 10 月 30 日（金）

「麻布フェスタ」での展示には、小雨が降るにもかかわらず多くの方が訪れた。当初 1 日だけの展示も会期を延長しての展示となった。



港区役所 ロビー
平成 22 年 2 月 8 日（月）
～ 2 月 10 日（水）

より多くの方に見ていただくため、支所から区役所へ場所を変え、「麻布フェスタ」での展示から新たにパネルを作成し、展示した。
メンバーによる区長へのパネル説明も行った。



2. パネル展の概要



フジフィルムスクエア ホワイエ

平成 22 年 2 月 19 日 (金)

～ 3 月 4 日 (木)

これまでの区施設での展示から、富士フィルム株式会社にご協力いただき、「フジフィルムスクエア ホワイエ」でパネル展を開催した。
見ていただいた方々のご意見・ご感想を広く募集するためにアンケート用紙も設置した。



港区麻布地区総合支所 ロビー

平成 22 年 3 月 8 日 (月)

～ 3 月 19 日 (金)

今年度、最後のパネル展は、「新旧写真の対比」と「麻布のいろいろ組写真」を 6 点ずつ展示した。
パネル展を通じて、多くの方々からたくさんのご意見をいただき、また次へと繋げることができた。



パネルの作成

Aグループは「麻布の昔と今 そして未来へ」と題し、街並みの変化を新旧写真の対比でパネルを作成し、Bグループは麻布と外国との繋がり等をテーマにしたパネルを主に、新旧写真の対比のパネルも作成しました。

今年度、最終的に作成したパネルは、新旧写真の対比がA・Bグループ合わせて28種類、Bグループが作成した「いろいろな@麻布」のパネルが6種類となりました。

「麻布の昔と今 そして未来へ」の写真では、今の写真に昔の面影を見ることができます。

「いろいろな@麻布」の写真は、すぐ近くにありながら、これまで気付かなかった麻布のいろいろを見せてくれるものとなりました。

※「麻布の昔と今 そして未来へ」の写真は、必ずしもすべてが同一地点、同一アングルでの撮影ではありません。また、使用している位置図はメンバーが作成したものです。



3. 未来に向けた新しい麻布 『麻布の昔と今 そして未来へ』

飯倉交差点 (旧：飯倉 2 丁目)



昭和 16 年

出典：麻布区史

伊勢大神宮の神前に捧げる稲を納める倉を飯倉と呼んだところから地名が起きた。飯倉 2 丁目の交差点には「萬屋」と交番が見られる。

現在は麻布台 1 丁目となっており、コンビニエンスストアなどが並ぶ。交差点の傾斜したカーブは今も昔の面影を残している。

平成 22 年



麻布御用邸 (六本木 1 丁目)

元々、八戸藩主南部信順と毛利元敏の邸地に分有されていたものを宮内省が買取り、その後、富美宮、泰宮両殿下の御住居、東久邇宮邸に宛てられていた

昭和 20 年の空襲により東久邇宮邸が消失した後、一部は国有地として残り、一時、農林水産省生活技術研修所が立地していたが、現在は再開発されたビルの間に取り残されている。



明治 40 年

出典：東京案内

平成 21 年



日本経緯度原点（麻布台2丁目）

近代日本の天文測量が始まった場所として、科学技術史及び文化史上、意義深い場所。ここには日本の経度・緯度を定める基準となる日本経緯度原点が設置されている。原点の位置は天文観測用に用いられた機器である「子午環」の中心位置にあたる。

現在は、国土地理院関東地方測量部が管理。花崗岩の台石に金属板をはめ、+印の位置地点の表示がある。



明治40年

出典：東京写真帖

平成21年



アメリカンクラブ（麻布台2丁目）

昭和3（1928）年に設立された「東京アメリカンクラブ」は、昭和29（1954）年に麻布台2丁目（当時：麻布狸穴町）に移転してきた。現在はクラブハウスの老朽化に伴い、建替えプロジェクトが進められている。

昭和46年の写真は、現在建築中の2代前の建物。



昭和46年

写真提供：東京アメリカンクラブ

平成21年



3. 未来に向けた新しい麻布 『麻布の昔と今 そして未来へ』

狸穴坂（麻布狸穴町）

この坂の下に、昔、古狸が棲んでいた穴があったのが、狸穴の地名の起こりとされる。

東側がロシア大使館となるので、今でも落ち着いた雰囲気を保っている。



昭和 34 年



昭和 45 年



平成 21 年



いたち坂（麻布永坂町）

昔、この坂の下に島崎藤村が住んでいた。

周辺には植木坂、鼬（いたち）坂、鼠坂があり、どの坂がどの名称なのかについては諸説ある。現在、主に「鼬坂」と呼ばれる外苑東通りに上る坂を、昔「植木坂」と呼んでいたという説もある。

植木坂の名は、周辺に植木屋が多かったことに由来する。



昭和 29 年

出典：アルバム東京文学散歩

平成 22 年



永坂（麻布永坂町）

坂道の長さが百六十間（288m）もあり、坂の名はそのために付いた。

現在は首都高速が通り、坂の上が見通せなくなったが、今もその坂の長さは感じられる。

昔、平屋建てであった「永坂更科」付近には、現在「永坂更科本社ビル」が建っている。



昭和 34 年

平成 22 年



昭和 16 年

出典：麻布区史

飯倉片町（六本木 5 丁目）

古い屋敷町の跡でもあった飯倉に隣接する飯倉片町にも、武者窓造り（縦に太い格子の入った窓）のお屋敷が残っていた。

現在の飯倉片町交差点付近は、ビルが並び、路面には中華料理店やカフェが軒を連ねる。

平成 21 年



3. 未来に向けた新しい麻布 『麻布の昔と今 そして未来へ』

ロアビル（六本木5丁目付近）

六本木の地名の由来は、古く松の木が6本あったと言い伝えられるが、いつどこにもわからないため、近年の説として、この大イチョウがそれだとの説も出ていたが、現在はもう存在しない。

昭和48年、それまであった商店が共同して「ロアビル」を立てた。当時としては珍しく、共同ビルの草分け的な建物である。

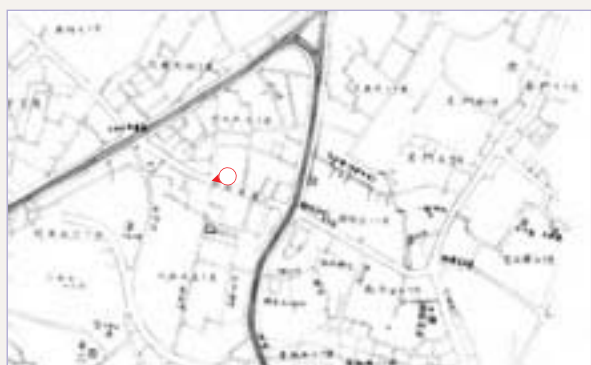


昭和16年 出典：麻布区史



昭和45年

平成21年



鳥居坂（六本木5丁目）

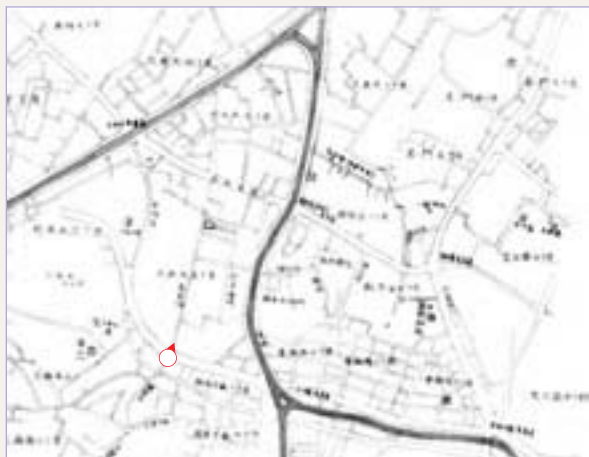
鳥居坂は、江戸時代から大名屋敷のあったところで、その静かな雰囲気は、現在も受け継がれている。

今はインターナショナル、ハイテク、エコ、バリアフリーに対応した“ちいばす”が走る。



出典：麻布鳥居坂警察署誌

昭和6年



平成21年

芋洗坂（六本木 5、6 丁目）

一説には、芋問屋があったためにこの名が付いたとされる。麻布十番方面から坂を上り、もともとは朝日神社の先（現在の六本木駅前郵便局付近）を麻布警察署の裏へ上がる道を言う。六本木交差点への道は明治時代の中期以降に出来たものである。

昔も今も郵便ポストの位置は変わっていない。電線地中化及び道路整備工事の完了前。電線の無い電柱が見られる。



昭和 38 年

出典：みなと写真散歩

平成 21 年



昭和初期

出典：昭和御大礼奉祝志

六本木交差点

大衆化してきた活動写真も、六本木映画館の開業とともに、この付近の人々に新しい娯楽を与えてくれた。

現在、映画館はなくなり、銀行と携帯電話の販売店となっている。

平成 21 年



市三坂（六本木3～4丁目付近）



昭和20年ごろ

昭和20年ごろ、戦後直後で焼け野原だった。遠く高台の上に霊南坂教会が見える。
昭和36年の写真では、まちは復興し、都電の線路が見える。やはり遠くに霊南坂教会が見える。

現在は首都高速道路が走っており、霊南坂教会は、もう見えない。



昭和36年

出典：みなと写真散歩



平成21年

市三坂2（六本木3～4丁目付近）

六本木通りは、明治20年代に新設された道路。

麻布市兵衛町から麻布三河台町へ貫いていたために、両町目名の頭文字の「市」と「三」をとって坂の名前とした。

都電（路面電車）の廃止が決定された昭和42年に首都高速道路（谷町JCT～渋谷）が開通し、同年12月に都電6系統（霞町線）は廃止された。



昭和40年

出典：みなと写真散歩



「市三坂」は三河台公園付近から谷町JCT方面を、
「市三坂2」は谷町JCT付近から六本木交差点方面を撮影。



平成21年

六本木交差点 2

戦後の区画整理が完了し、六本木通りには中央分離帯が置かれた。

現在、中央分離帯は撤去され、その上に首都高速道路が走っている。



昭和 34 年

平成 21 年



明治 38 年

出典：麻布区史

竜土町（六本木 7 丁目）

日露戦争後、帰還する兵士を迎えるため、軍人町麻布でも凱旋門が建てられた。

終戦後、米軍に接収されていた土地は返還され、昭和 35（1960）年に防衛庁本庁舎となった。

陸軍連隊本部も今は東京ミッドタウン。

平成 21 年



龍土軒（六本木7丁目）



昭和 39 年

出典：みなと写真散歩

龍土軒は、明治 33（1900）年、麻布新竜土町に開業したフランス料理店。もともと画家、美術史家たちが常連であったが、麻布軍人町にあったため、将校等の利用も多く二・二六事件の頃に将校たちの会合に用いられた事で有名。

明治時代からの芸術と国家変遷の生きた歴史であったが、現在は西麻布に移転し、跡地には別の新たなビルが建築中。

平成 21 年



国立新美術館（旧東大生研）

東京大学の附置研究所である生産技術研究所は、昭和 37（1962）年に六本木の旧歩兵第三連隊兵舎へ移転し、平成 13 年に駒場第 2 キャンパスへ移転するまで立地していた。

その後、東大生研跡地には、平成 19 年に国立新美術館が開館した。



昭和 63 年

写真提供：東京大学生産技術研究所

平成 21 年



ヘリポート前の空（六本木7丁目）

昭和 33（1958）年に在日米軍が接收解除した後の新竜土町。奥には旧歩兵第三連隊兵舎（昭和 37 年に東大生研が移転）の建物が見える。右手は現在、都立青山公園になっている。都立青山公園は、昭和 45（1970）年に整備・開園されたが、大部分は在日米軍赤坂プレスセンター（星条旗新聞社）及びヘリポートに占有されている。



昭和 37 年

出典：みなと写真散歩



現在、ヘリポートを挟み政策研究大学院大学と六本木ヒルズの間にある青い空を望むことができる。

平成 21 年



昭和 37 年

出典：みなと写真産婦

六本木ヒルズ周辺

テレ朝通りから、当時の材木町交差点を望む。道の左右、正面には小さな商店が軒を連ねる。

現在は、小さな商店はなくなりビルが建ち並ぶ。

平成 21 年



3. 未来に向けた新しい麻布 『麻布の昔と今 そして未来へ』

テレ朝通り（六本木6丁目付近）



昭和 38 年

出典：みなと写真散歩

日本教育テレビ（現在のテレビ朝日）が置かれたことから、この通りの名が付いた。

平成 15（2003）年に六本木ヒルズが完成し、テレビ朝日もその一角を成している。

平成 21 年



出雲大社東京分祠（六本木7丁目）

縁結びで有名な出雲大社の東京分祠が六本木にある。

明治 11 年 1 月に神田神社内に設けられたのに始まり、明治 15 年麴町に移転され、明治 22 年より六本木（当時の麻布区材木町）に置かれている。

現在は近代的になっているが、風格・趣は深いものを備えている。



昭和 16 年

出典：麻布区史

平成 21 年



西麻布交差点

霞町交差点（現在の西麻布交差点）、緩いカーブのある高樹町への上り坂。遠くに都電が走っているのが見える。

右の写真は高樹町から西麻布交差点への下り坂。



昭和 37 年

出典：みなと写真散歩



平成 21 年



平成 21 年 現在の西麻布交差点の様子。



昭和 40 年頃

写真提供：南麻布 4 丁目 豊田幸雄氏

天現寺橋交差点

天現寺橋交差点は、青山方面から南下してきた筈川が渋谷川に合流し、古川と名を変える起点である。

昭和 40 年頃、広尾病院の屋上から天現寺橋交差点を望む。都電 34 系統が明治通りを走っている。

現在、明治通りと外苑西通りが交差し、首都高速の天現寺口があり、今も変わらず交通の要所となっている。



平成 21 年



3. 未来に向けた新しい麻布 『麻布の昔と今 そして未来へ』



昭和 57 年



昭和 34 年

光林寺付近 (南麻布 4 丁目)

光林寺には、日米和親条約締結の2年後、初代駐日米国総領事として下田に着任したハリスに同行していたオランダ人通訳ヒュースケンの墓がある。



平成 21 年 現在の光林寺付近 (上の写真とは逆向きで撮影)



氷川神社 (元麻布 1 丁目)

創建は天慶 5 (942) 年とも文明年間 (1469 ~ 1486 年) ともいう。万治年間 (1658 ~ 1661 年) に麻布一本松付近 (現在地より 300m ほど北) から現地へ移転した。

現在は、すぐ後ろに元麻布タワーがそびえる。



昭和 6 年

出典：麻布鳥居坂警察署誌

平成 21 年



がま池 (元麻布2丁目)

がま池は、天真寺(南麻布3丁目)の北方の住宅敷地内に入ったところ(元麻布2丁目)にある。名の由来には諸説あるが、大蝦蟇が棲んでいたというのは共通するところである。

現在はマンションの一角に囲い込まれて、大半の面積を失っている。



昭和34年

平成21年



筈川と庚申塔



明治40年

出典：東京写真帖

麻布広尾の古川。川の流れるまち、昔の麻布は川岸の湿潤地帯であった。
天現寺橋付近で古川(渋谷川)に合流する筈川(現在は暗渠)は、青山3丁目の梅窓院付近が水源の一つ、根津美術館にも水源を持っている。
近くに川が流れ、昔は草原であった場所には、人々の道標ともなっていた庚申塔が建っている。



平成21年 左が筈川?



平成21年 庚申塔(西麻布2丁目、南青山3丁目)



3. 未来に向けた新しい麻布 『いろいろな@麻布』

癒しスポット@麻布



- ①. 西麻布のバラ一輪
- ②. 西麻布でオシャレな紅葉を楽しむ
- ③. 六本木ヒルズレジデンス前のピオトープ
- ④. 出雲大社東京分祠付近の路地の花
- ⑤. 植え込み
- ⑥. 邸宅内に大木が
- ⑦. 道路の割れ目でがんばる緑
- ⑧. 六本木トンネル付近から見る銀杏
- ⑨. 出雲大社東京分祠の参拝客
- ⑩. 教会に残る灯籠
- ⑪. 六本木通りメトロハット付近の植え込み
- ⑫. 古い路地

①		⑧
②	⑥	⑨
③		⑩
④		⑪
⑤	⑦	⑫

看板・標識・表示の足跡@麻布

- ①. 安藤記念教会のステンドグラス
- ②. 安藤記念教会のステンドグラス
- ③. コインパーキングのサイン
- ④. 西麻布の民家とかわいい看板
- ⑤. ちいばすと銀杏
- ⑥. 西麻布の洒落た禁煙サイン
- ⑦. 庚申塔の由来
- ⑧. 道しるべの役目もする庚申塔
- ⑨. 六本木ヒルズ
- ⑩. 長谷寺（永平寺別院）
- ⑪. 南部坂の傾斜表示
- ⑫. お洒落な区の花
- ⑬. けやき坂下の交差点付近
- ⑭. 在住外国人飼主へのお知らせ？ 青山公園
- ⑮. 西麻布3丁目
- ⑯. 戦車？



①	②	⑦	⑪	⑫
③		⑧		⑬
④				⑭
⑤		⑨		⑮
⑥		⑩		⑯

立体彫刻・モニュメント@麻布

- ①. 六本木ヒルズ展望台の白いクリスマスツリー
- ②. アンティーク人形のある雑貨店
- ③. 頼もしい雷神（長谷寺）
- ④. 画廊の「たんたん狸」！
- ⑤. 六本木ヒルズのカフェ前に招き牛
- ⑥. 金の蛙
- ⑦. ガラスごしに見守るピリケン
- ⑧. ファンシーな建物の側面に天使の足が・・・
- ⑨. 麻布十番のアイドル、赤い靴のきみちゃん
- ⑩. 今も昔もお地蔵様は日本人の琴線に触れる！
- ⑪. 六本木ヒルズ屋上のオブジェ??
- ⑫. 六本木ヒルズ展望台のクリスマスツリー
- ⑬. 空飛ぶロボット（桜坂公園）
- ⑭. 力強い風神（長谷寺）
- ⑮. 顔が刻まれ横たわる石
- ⑯. 長谷寺（永平寺別院）の龍

①	⑦	⑪	
②	⑧	⑫	
③	④	⑬	
⑤	⑨		⑭
⑥	⑩	⑮	⑯



トワイライト・光の海・ネオン@麻布

- ①. 西麻布3丁目外苑西通り沿いのビル屋上より
- ②. 年末のけやき坂
- ③. 政策研究大学院大学から青山墓地を望む
- ④. けやき坂下交差点付近の夕暮れ
- ⑤. 六本木ヒルズレジデンス
- ⑥. 六本木 ドンキホーテの角
- ⑦. 麻布十番駅4番出口付近のろうそく灯
- ⑧. 六本木5丁目交差点と車
- ⑨. 六本木交差点
- ⑩. 西麻布3丁目外苑西通りのヘッドライト
- ⑪. 青山から望む夕暮れの六本木ヒルズ
- ⑫. 外苑東通りから望む東京タワー
- ⑬. 政策研究大学院大学から青山方面を望む
- ⑭. 六本木 ROPPOINGI
- ⑮. 暮れなずむ飯倉片町付近
- ⑯. 米軍ヘリポート

①	⑦	⑪		
②	⑧	⑫		
③	⑨	⑬		
④		⑭		
⑤	⑥	⑩	⑮	⑯



3. 未来に向けた新しい麻布 『いろいろな@麻布』

レトロ、モダンな街並み・建物・屋根@麻布



- ①. 麻布十番の尖塔??
- ②. げんこつタワー (元麻布)
- ③. 六本木ヒルズ
- ④. 仙台坂 国際家畜病院
- ⑤. 尖る建物 (西麻布3丁目)
- ⑥. 懐かしい街並み (南麻布)
- ⑦. 外苑東通りに残る建物群
- ⑧. 六本木ヒルズ
- ⑨. 富士山とまち (六本木ヒルズ展望台から)
- ⑩. ヒルズを斜めに切る (西麻布3丁目)
- ⑪. 筈川跡 (西麻布2丁目)
- ⑫. 麻布台2丁目
- ⑬. 国立新美術館を見下ろす
- ⑭. 沖田総司のお墓の横におしゃれなビル
- ⑮. 曲線美の国立新美術館
- ⑯. スペイン村 (麻布台3丁目)
- ⑰. 飛び込み台? (西麻布)
- ⑱. 階段屋根のビル (西麻布)
- ⑲. 北条坂下の建物

①	⑧	⑪	⑫
②	③	⑨	⑬
④	⑩	⑭	⑮
⑤		⑥	⑯
⑦	⑰	⑱	

人・動物・イベント@麻布

- ①. 長谷寺で忙しく働くお坊さん
- ②. 麻布、六本木界隈の夏祭り
- ③. 排気ガスにも負けず健気に生きる鳩一家?
- ④. 犬もお祭りに参加
- ⑤. 紅葉スポット (有栖川公園)
- ⑥. 大使館警備風景 (仙台坂上)
- ⑦. 今年も巣立った駐車場のツバメたち
- ⑧. 有栖川公園でバギー達も一休み
- ⑨. 六本木ヒルズに咲く人工のバラ
- ⑩. 国際文化会館の中庭
- ⑪. 政策研究大学院大学 留学生卒業式
- ⑫. 有名人のベンツで昼寝するネコ
- ⑬. 麻布十番商店街を行くお神輿
- ⑭. 有栖川公園の池に外来種の亀
- ⑮. メトロハット脇の雑草
- ⑯. 政策研究大学院大学の卒業生

①	⑦	⑪
②	⑧	⑫
③	⑨	⑬
④		⑭
⑤	⑥	⑩
		⑮
		⑯



B グループまち歩き 第1回 (平成21年7月26日)
タイムテーブル

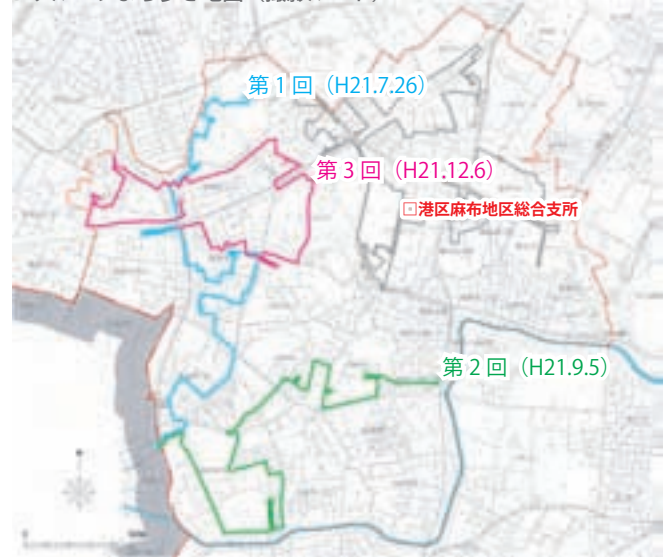
- 10:10 明治屋広尾ストア前に集合
- 10:06 南麻布交差点
- 10:10 有栖川公園入り口
- 10:14 南麻布五丁目郵便局前の路地
＜路地を抜けて＞
- 10:22 モルモン教の塔
- 10:24 ノルウェー、スイス、中国大使館
- 10:26 モルモン教東京大聖堂正面玄関
- 10:30 愛育病院
- 10:35 北条坂
＜西麻布3丁目住宅地へ＞
- 10:37 外国人のためのプリスクール
- 10:39 弁小学校
- 10:41 弁小学校校庭側の門
- 10:45 弁公園
- 10:59 江戸時代のままの坂道 (通称:ゴミ坂)
- 11:03 中国大使館
- 11:10 大横丁坂を下る
- 11:11 ラオス大使館
- 11:13 ギリシャ大使館
- 11:21 インターナショナルプリスクール
- 11:29 ウクライナ大使館
- 11:31 素敵な雰囲気のある坂
- 11:37 ルーマニア大使館
- 11:40 梅好で昼食
- 12:25 梅好を出発
- 12:29 ガソリンスタンド (免税)
- 12:34 大使館ビル
- 12:40 西麻布交差点
- 12:46 星条旗新聞社
- 12:56 青山公園から望むヘリポート
- 13:20 新国立美術館裏門到着



B グループまち歩き
タイムテーブル

3回のまち歩きで、どのくらい時間をかけて、どこを歩いたのか。
こんなスケジュールでまち歩きを行いました。

B グループまち歩き地図 (撮影ルート)



B グループまち歩き 第2回 (平成21年9月5日)
タイムテーブル

- 10:00 明治屋広尾ストアを出発
- 10:06 広尾橋交差点から広尾タワーズの角を今回は右折
- 10:11 広尾稲荷神社
- 10:23 青木坂
- 10:25 フランス大使館
- 10:28 ニュー山王の前
- 10:32 明治通り
- 10:35 光林寺前 (五之橋) に到着
- 10:38 光林寺を奥へ進む
- 10:40 ヒュースケンの墓
- 10:56 光林寺を出発
- 10:57 明治通りから左折して新坂を上る
＜HOMAT VIRGINIAの角を左折して小道に＞
- 11:05 大きな木が残った家、その先を右折して
- 11:08 老人ホームが出来る場所
- 11:13 中国大使館別邸を右折
- 11:15 ドイツの大使公邸の裏門?
- 11:18 有栖川公園門
- 11:20 南部坂
- 11:25 休日の有栖川公園
- 11:31 区立麻布運動場
＜小道をがま池へ向かう＞
- 11:36 駐車場から「がま池」を望む
＜西町インターナショナルスクール方面へ＞
- 11:45 西町インターナショナルスクール
- 11:46 元麻布ヒルズの入口交差点
- 11:50 氷川神社
- 11:55 安藤記念教会
- 11:59 仙台坂上交差点から仙台坂下へ下る
- 12:02 国際家畜病院
＜裏道を通って善福寺方面へ＞
- 12:11 善福寺
- 12:23 善福寺出発
- 12:32 麻布シチュウ



B グループまち歩き 第3回 (平成21年12月6日)
タイムテーブル

- 09:30 西麻布交差点、ホブソング前に集合
- 09:45 西麻布交差点を出発して、六本木通りを六本木方面へ
- 09:49 右折して西麻布3丁目の奥へ
- 10:23 路地を左右に折れながら
- 10:25 ラオス大使館前
- 10:03 テレ朝通り
- 10:04 一向山専称寺「沖田総司の墓」
＜テレ朝通りへ戻り、六本木ヒルズへ＞
- 10:14 ロボット公園、六本木ルーテル教会
- 10:18 六本木ヒルズへ
＜六本木けやき通りを渡り＞
- 10:32 麻布トンネル
- 10:35 メトロハット
- 10:40 六本木六丁目交差点
＜西麻布1丁目から六本木7丁目へ＞
- 11:50 出雲大社東京分祠へ到着
＜路を曲がって、また曲がって＞
- 11:06 都道319号線の下をくぐります
- 11:08 星条旗新聞社の銀杏
- 11:12 朝市?
- 11:14 ガーナ大使館
- 11:19 龍土軒の看板
- 11:20 外苑西通り
- 11:22 信号を渡って西麻布2丁目
＜昔は川だった道 (古地図を見ながら)＞
- 11:33 青山庚申塔
＜昔からある道を通り、坂を上り＞
- 11:46 永平寺別院長谷寺 (麻布大観音)
- 11:47 麻布大観音
- 12:00 高樹町交差点
- 12:08 西麻布交差点
- 12:15 麻布長江香福庭



4. メンバーのこぼれ（一年間の活動を振り返って）

座長 臼井 浩之（Aグループ）

日々まちが変化している港区。特に再開発等でそれが著しい麻布地区の変わり行く様子をカメラに収め、後世に伝えるとともに、それをきっかけに新たなまちづくりのあり方を考える材料となれば、という思いで始めたこの「麻布未来写真館」です。

今の麻布がどのように変化してきたのかを考えながら写真を整理して行くと、江戸時代からの歴史や、地形的背景などとの関連をも学ぶ事となりました。

私の住む六本木地区はまさに軍隊のまちでした。写真は日露戦争当時の凱旋門で、今の東京ミッドタウンの前です。軍隊のまちを印象付ける一枚ですが、今の六本木からは想像もつきません。

今、我々が残している写真も、後の人々が麻布の歴史や文化を知り、思いを寄せてくれる手助けになれば幸いです。



一連隊前通（明治38年）

出典：「麻布区史」

メンバー 増子 照孔（Aグループ）

Aグループは臼井座長の発案で今昔を対比する展示することが出来、大変満足しております。

私が今住んでいるところは、緑と日本家屋が多く、長年離れ難い思いをしております。大学卒業後、田舎から上京してきた私は、お人柄の良い地域の様々な方に育てられました。これまで、何代も住んでいらっしゃる方のお話なども聞いておりましたので、今回の活動を通じて、港区を愛している方々やお世話をしてくださった方々に昔を懐かしんでいただけたら良いと思っております。また、今の港区しか知らない新住民の方々にも昔を知ってほしいとも思います。

昔の想いを未来に残す写真館が出来れば素敵ですし、また、少しでもお役に立てればと思い参加しましたが、振り返ってみれば、反省しきりでもあります。例えば、ご覧になった区民がどのようにお感じになり？また、興味を抱いていただけたのか？とか。展示だけではなく、そういった点も熟慮、協議すればよかったように今となっては思います。

これからはさらに、区民の方々にプラスになる事を考え続けていきたいと思っております。

メンバー 横島 久子（Aグループ）

私の心に留めておきたい写真の中の一枚です。

私の住む麻布台1丁目（我善坊町）の一画で、昭和40年ごろまでは、このような土蔵や数寄屋門の邸宅が数軒残されておりました。懐かしい風景です。

しかし、この半世紀の間に、生活様式など大きく変貌してまいりました。

この地域も再開発により変わってしまいます。現風景を少しでも後世に残しておきたいと思っております。また、ファインダーをとおして見た風景、建物など残せるものは、手を加えながらも、未永く保存できますよう願っております。



数寄屋門



副座長 磯 和子 (Bグループ)

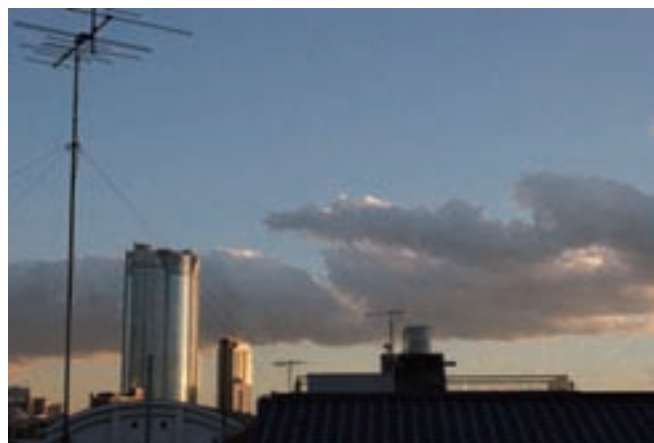
「記憶を遺す」 いつの間にか消えてしまった風景は記憶として残っても、世代の交代とともにやがて記憶も消えてしまう。激しく変化し続ける街で、注目を浴びるビルの谷間に息づく温もりや、歴史の記憶を映像で具体的に未来に伝える事は大切だと思います。観光資料にはない生活者としての視点でカメラに収め、その思いをキャプションにし、過去の貴重な映像も収集して未来に遺していきたいと思っています。



メンバー 佐井 有美子 (Bグループ)

「麻布未来写真館」の活動は写真で表現することの楽しさを再認識するきっかけになり、家族から私に「週末カメラウーマン」との「称号」を与えられることになりました。散歩や買い物の途中でもカメラアングルでどう捉えようかなどと、つい「プロ」意識がのぞく今日この頃です。

自宅の屋上から撮った六本木ヒルズです。夕日に照らされて綺麗でした。

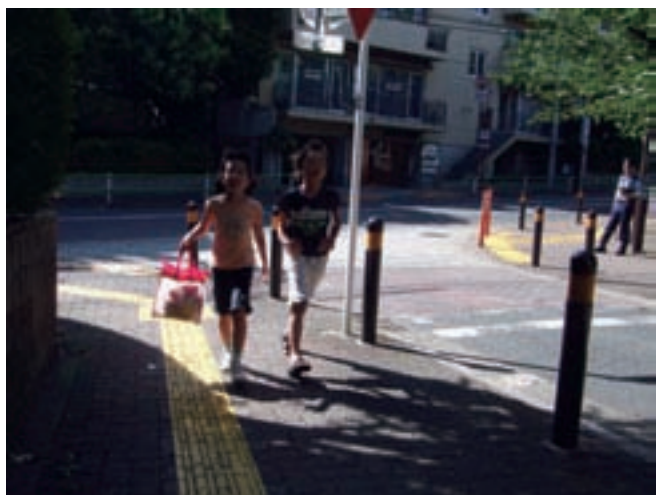


メンバー 近藤 敏康 (Bグループ)

めまぐるしく変化する麻布、過去の写真や図録など資料の収集と、一住民の目線から現在の生活を写真とキャプションの形で未来に伝えたいと思い、参加させていただきました。

本年度は外国とつながりの深い麻布という観点で景色、看板、生活などのテーマごとに組写真や、まち歩きルートのご提案の形にまとめる事ができました。

参加者、関係者の皆さまに感謝しております。



講師 達川 清 (フォトグラファー)

「麻布未来写真館」の講師に迎えて頂き幸いです。私の写真生活の大半は六本木・麻布地区にあります。よく使う撮影スタジオがあり、事務所も持っていたからです。

「まち歩き」のスタートは広尾交差点。嬉しいファーストショットがこの写真です。

皆さん熱心で少しのアドバイスで写真がどんどん良くなっていくのに感心しました。撮影の合間に話していた、長く住んできた想い・変貌する街への危惧・新しい発見の喜び・等々が展示写真によく現れています。一緒に歩いていると写真の奥にある皆さんの麻布への深い想いを感じ入ります。

写真を透して「過去・現在・未来」が見えてくる、この「麻布未来写真館」に多くの方々の参加を熱望します。



区民参画組織・麻布を語る会とは

麻布地区総合支所では、平成 18 年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組みに力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現に向け、区民主体の検討や取組みを進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

メンバーは、麻布地区内に居住し、勤務し、在学し、又は麻布地区のために活動したい公募区民によって構成され、平成 22 年 3 月現在、「麻布未来写真館」「基本計画協働推進」「地域情報の発信」の 3 つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な取組みを進めています。



港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和 60 年 8 月 15 日

港 区

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会 平成 21 年度 活動報告

刊行物発行番号
21342-1435

平成 22 (2010) 年 3 月 発行

発行 港区 麻布地区総合支所 協働推進課

〒106-8515 東京都港区六本木 5 丁目 16 番 45 号

電話 03-5114-8812

《主な参考文献・資料》

「増補 写された港区 三（麻布地区編）～麻布・六本木ほか～」港区教育委員会

《古写真について写真協力・出典》（順不同）

豊田幸雄氏、東京大学生産技術研究所、東京アメリカンクラブ、「増補 写された港区 三（麻布地区編）～麻布・六本木ほか～」、「麻布区史」、「東京写真帖」、「アルバム東京文学散歩」、「昭和御大礼奉祝志」、「みなと写真散歩」、「東京案内」、「麻布島居坂警察署誌」

《技術・会場協力》

富士フイルム株式会社



「麻布未来写真館」

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会 平成21年度 活動報告